八、倶知安共益信用組合　は明治四十四年七月廿二日出資金一万三千四百十圓にして組合員各自定額の出資をなし農業資金として貸付をなし居れり組合長は伊藤助治氏其任に當り居れり

九、有限責任倶知安購買販賣組合　は明治四十三年の設立にして組合員百八十九名にて一株金二十圓の出資なり目的は農家に必要なる物品肥料繩莚等を買入れ組合員に配付するものにして一ヶ年の金額は一万數千圓に上り農家より燕麥を買入れ陸軍糧秣廠に供給するものにて其生産者に支拂ふ金額は實に一ヶ年七万圓内外とす利益配當は年六歩に止め其他は積立金とし現に六千圓以上に達し居れり設立當時より本年迄組合長宮脇胤意氏、廣瀨悦太郎、安部重之理事にて伊ノ瀨清吉、八反田角太郎の二氏監事たりしが改選の結果現時理事長猪ノ瀨清吉、理事高橋元治郎、金輪磯五郎、監事阿部重之(一名欠員)の諸氏にして本組合は當町否後志支廳管内の模範組合と云ふ可し

十、倶知安信用購買販賣組合は大正四年二月の創立にして目的は前項購買販賣組合と同じく組合員二百〇九名あり組合設立後日尚ほ淺き爲め數に於て前者に劣るも貸付の如き本年七千圓、燕麥陸軍納めは約二万五千俵の見込にして利益配當及積立金等も前組合と同一なり設立當時の役員は今井亦藏、宮竹平三郎、足達繁太郎、小松甚之助、青木幸作の諸氏なりしも改選の結果理事松本清吉、藤田專太郎、玉川清利、監事山名平藏、梅尾友吉の諸氏にして前途有望の組合なりとす

十一、帝國製麻株式會社倶知安製線工場　は第二章の二項工業の今昔に詳記せし如く全道屈指の工場にして一時休業中なりしが前主任原富雄氏再興の好果を收め轉任後は、主任加納富喜雄氏部下を督勵し目下社員九名、職工五十一名、雜役三十六人何れも寢食を忘れ勉勵しつゝあれば非常なる好成績を擧げ居れり、大正四年製造高亞麻正線十四万三千五百斤、同粗線七万三百九十斤、價格二万七千八百八十五圓

十二、倶知安火葬々儀合資會社　は資本金一千圓を以て明治四十四年三月著者山田實次個人として許可中のものを合資會社に改め專務取締として無限責任社員なりしが都合に依り大正二年責任を去り爾來名畑長太、伊井億右工門、横屋弘之助、阿部猪五郎氏の四名にて經營せられつゝありて前途有望の會社なり資本金一千圓にして一ヶ年利益金三百九十三圓なり

十三、倶知安魚菜市場　は明治三十七年中央市街九號線に倉田德兵工なる人新設したるも如何なる事情にや一年に滿たざるに廢業し建物のみ殘り居たるが當町の氣運次第に進み人戸の增加につれ日用食膳に供する鮮魚は各五十集業者の競爭劇甚なる爲め不當なる代價を以て賣買せら

れつゝあるに際し明治四十二年町の富豪阿部半平氏五十集業者奥光太郎、三浦台藏(故人)松岩秀藏三氏の勸誘に應じて過半の出資をなし玆に合資會社の魚市場を設くるに至る利益配當年三割以上にして將來有望の事業の一として數へられつゝあり

■會社としては、藥種小間物類販賣の丸三弘明堂なるもの資本金三千圓にて明治四十五年八月に起り、無限責任社員今井庫治氏擔任し、四十三年三月資本金一千五百圓にて合資會社津田商店なるもの起り津田辰太郎氏無限責任社員たり、大正四年七月貳千圓の資本にて曲サ澤田商店は米穀雜貨販賣業をなし澤田氏事務を擔任す、明治四十五年五月合資會社奥村運送店資本金六百三十圓にて設立せられ奥村健吉氏擔任す、大正四年七月に六百圓の資本にて曲余大島商店小間物雜貨販賣の目的にて生れ大島十余八郎氏業務員たり、大正四年九月金久合資會社資本金貳千圓にて米穀荒物委托業の目的にて設立せられ業務擔當員は小野武喜知氏にて盛んに發展しつゝあり、大正四年十二月資本金五千圓にて米穀肥料委托販賣業を目的とする合資會社山十一小能商店生れ能登庄吉氏擔任し本年の如きは東倶知安及眞狩村喜茂別方面に一意發展を試みたるため莫大なる收益を見たり

■菓子屋　倶知安に於ける各營業者の内にて階段的成功者は菓子店なる可し菓子屋として最も古きは中央市街荻田龜次郎氏の經營になる菓子店なるが開業後着々繁榮の歩を進め町内に於ける同業者中の成功者となれり菓子製造業者は目下五戸其他駄菓子製造者七八軒もあり

■雜穀業專門を以て人も許し自分も亦是認し益々隆盛に赴きつゝあるを中央市街丸は橋本甚助氏とす氏は越中の人にて岩内に來り十數年前倶知安に轉住して現在の處に住せし雜穀專門の商傑なり農產商の重鎭にして商機に敏なるは倶知安屈指の一人なり

■一昨年眞狩村字喜茂別より倶知安中央市街に移り雜穀荒物商店を開業し盛んに倶知安在住の人と併立し營業を發展せんと企圖し家屋倉庫を新築し發展を試みつゝあるを二階堂喜三郎氏とす青年商人として將來有望なる一人なり

■中央市街九號線に於ける雜穀荒物店にして最も古き歷史を有するを山利本間勇藏氏の商店とす氏は佐渡の產にして倶知安に來りて漬物商を營み傍ら荒物店を業とせしに次第に店舗を擴張し現今にては米穀荒物店本位となり漬物店は眞の副業たるに過ぎず村會議員及び部長に推選せられたることあるも店頭無人を口實として辭退せられつゝあるも將來は衆望氏に集り一躍公職を帶ふるに至る可し

■受負業者中に於て相當に成功せし者の中に最も古きは小野塚要七氏とす氏は新潟縣西蒲原郡

松永村に生る大工職にして建築受負業に最も適應し明治三十年五月倶知安に來り最初の郵便局建築を始めとし引續き今日に至る氏は村内公共事業に力を盡し昨年迄倶知安第三部長として十二年一日の如く勤勉せられたり氏は男子多く何れも一定の業に就き居れり目下經營しつゝあるもの石油發動機の製材挽割業山金座劇場、角長旅館、茶並に洋菓子店等皆子息をして分擔營業をなさしめ居り貯蓄次第に增加し借家の如きは殆んと四十餘戸に及ぶ可しと

■受負業者にして最新と云ふ人ある可きも十年前より受負の業をなし來り格別人に知れざりしが近來に至り最も發展の度を高め有ゆる方面に手を擴げ受負事業をなしつゝあるを久我祐信君とす氏は元余市に住し商業を營み來りたるも倶知安の將來を推測して當地に來り徐々に歩を進め今日に到りたり、令閨は池の坊花道に堪能にて日々子女に敎授しつゝあり

倶知安養蜂事業

北海道に於ける養蜂業は日に隆盛に趣きつゝあるは誠に悅ばしき事にして農家の副業として大に奬勵せざる可らず大正四年度石田宗一氏所有の養蜂が越年をなし好成績を擧ぐるや知人和歌山縣伊都郡三好村の人田中龜次郎氏本年六月百群の蜜蜂を携へ來り中央市街金比羅寺近傍に配置し本年十月郷里和歌山に歸る滊車中八日間にして百群を分讓して郷地に着したるが其結果非常の好成績を得たれば明年又田中氏は數百群を連れ來り各所に配置せんとて地所の買入交渉中なり滊車便にて携へ來り僅々五ヶ月にして好果を得し如きは實に將來の有望なるを證するものにて倶知安に於ける一事業と認むるを得可し

倶知安町水田事業

倶知安町青木農場水田試作經過概要

倶知安に於ける水田事業に關しては種々苦心せし如く傳へられたるも具体的に經營をなさゞるを爲め充分なる注意を拂はれざりしが嘗つて深川方面に於て水田事業と灌漑溝事業に經驗を有したりし水田開發に熱心なる青木氏は明治四十三年春岩見澤町川向土功組合技手幸田八二郎氏に設計を依託し同年秋十一月を以て青木農場の灌漑溝千八百間を竣工せしめたり

元來此農場は舊來山陰移住會社の小作人をして開墾せし處にして水田を經營せしは實に青木氏の賜ものなり氏は氣候の關係及寒地試作の必要上青森縣弘前の人藤田貞元翁を招聘して明治四十四年より水田を作成し水稻試作を開始し大正四年よりは佐藤仁太郎氏之れに代り一意專心當地方の爲め其耕作方法を研究しつゝあり、大正五年試作反別は七反歩餘にして種類は赤毛、黑

毛、坊主、岩内產糯米等にして何れも優に一石五斗より二石の收量ありて品質も亦良好にして上川方面の米と同一なりと云ふ尙昨年よりは實父靑木氏は深川及岩見澤方面の水田地に奔走中とて實息靑木三哉氏專ら其任に當りつゝあり明年は旣成灌漑溝を應用し水量の全部を水田に注ぐ可き計畫中なりと將來倶知安に於て最も注目に價ひす可き事業なりとす

中村與三松商店

基線西六號　（電話八番）

倶安知市街として第二次發展地基線西六號線に宏壯なる石藏並に木造大倉庫を左右に有し廣大なる店舗を構へ商品の出入忙はしく取引客常に絶ゆること無くして最も般賑を呈し居るは雜穀商東大關（倶知安）中村與三松氏の商店とす、中村氏倶安知はの商業界に稀に見る戰士にして地方的實業界を開發するの興奮劑的人物なり氏は石川縣上金石町に生れ壯年海軍兵として現役中は數度の遠洋航海を爲したるを以て海外に於ける商品の需用及び種類品質等の研究をなし期滿つると同時に農產輸出品の豊富なる倶知安に居を構へ專ら雜穀商を以て專門とす目下米穀雜貨商組合の役員にして町內の名望亦厚く現在倶知安町會議員に推擧せられ一般の信用を集めて名隆々たる紳商なり

伊井億右工門商店

停車場前　（電話十五番）

倶知安の發達は農業並に商業二者の般賑を致す處にして兩者の般賑を極むる所以は山麓半面の大原野に於ける農產集散の中心市場なるを以てなり、されば農產物取引の如何は直接金融に一大影響を及ぼして爰に經濟界に變動を見る農產物の市價高値を唱へ商取引捗々しきものあれば忽ちにして市況の振興を見る、然らざれば市況極めて沈靜す爰に於て氏は小樽函館方面に向て取引を爲すのみならず遠く內地方面に直輸出の端を開き汽船又は鐵路便にて浦鹽方面は更なり米澤山形秋田仙臺東京等の各地に多大の輸出を試みし爲め昨年靑豌豆大福豆等の價格俄暴かに騰するや函樽商人の手を省き京阪及神戸方面より相携へ此地に來り倶知安商人を除き直接買入れを爲さんとするより氏を先頭とし各商店堅く結束し反つて彼等を嘲弄し獨り倶知安商人の巨利を得たるは氏の力大なりし事を認む氏は農產商組合長米穀雜貨商組合火葬々儀會社水力電氣會社等の重役にして雜穀農產商西の大關として德望を有し商機に敏活にして資本流動主義を以

て商略の目的とし前途有望の青年紳商なり氏は明治廿七八年の日清戰役に出征し名譽の負傷を爲したる結果兵役を免除せられし陸軍歩兵軍曹なり

萩田清平商店

基線西九號西角　（電話四八番）

當町に於て最も新進の雜穀商にして商取引頻繁を極め商運益々隆々たるものあるを萩田清平氏の商店なりとす、數年前倶知安主要産物の一なる大豆の大蟲害を受け其價格標準の未定なる上消費の術なく農家並に各商人等殆んど持ち餘し居たるに際し全力を注ぎ當町尻別川以南方面全部の買入を實行し一時に萬以上の巨利を博せしは商機を捉ふるに敏なるの致す所なる可し氏は競爭激甚なる倶知安商界に處して幾多先進の商人に對して些の遜色なきのみならず他日畏敬すべき商傑を以て目せらる年齡漸く四十二歲本年盛大なる六七の祝宴を催さる、氏は常に仁俠に當み前途洋々たるものありて其活動振りは洵に刮目に値す目下町會議員の公職を有し倶知安水力電氣會社の重役にして其他各方面に活動しつゝある前途有望の紳商なり

關口茂平氏

基線西六號　（電話六十一番）

邦人常に云ふ商機の最も敏なる國を全國に求むるに先づ指を越後近江大阪と屈すと宜なる哉越後商人近州商人は最も商業に敏にして忍耐に富む、倶知安開村當時に於ける商業の基源も亦越後出身關口茂平氏を以て嚆矢とす氏は夫婦相携へ岩内を經て明治廿六年倶知安に來住し商店を開始す、今の東倶知安村倶知安町一圓に丸越關口商店なる一小商店を南一線に設く前記三十八方里内の移住者は三々五々相集りて一盃の腰掛酒を求むるも此商店に行かざれば舌鼓を打つ能はず實に三十八方里の獨占的商店の感あらしめしと氏は此頃より倶知安の將來に望む可き何物かの有る事を覺りたる者の如く幾多の變異曲折を事ともせず不撓不屈の効を奏し十數年前より一時に羽翼を擴大ならしめ又相當に産を興し目下大農場主として巨萬の富をなす曩きに東倶知安には雜貨商店を開始し爾來益々繁榮し傍ら眞狩村に於ける自己農場小作人の需用に供し居れり目下小作人八十一戸に達し漸次開拓の歩を進めて今や其實績を收めつゝあり而して其他の方面に向ても業務の擴張を謀り薄荷の栽培並に薄荷精の自製等は舶來品を凌駕するの好成績を認め尙卒果栽培の如きは最も熱心にして年々其功果を現はしつゝあり現主茂平氏は多趣味の人にして力戰奮鬪的人物なる上令閨も亦越後商人氣質を發揮し東倶知安商店の如きは令閨の經營と云ふも亦誣言にあらざる可し加ふるに令息憲次郎君は青年有爲の人格を有し倶知安の將來に於

ける一流人物の候補として町民より認識せられ居れり年齢未だ廿六歳沈着にして好く父母の業を助け居れり現主茂平氏は目下倶知安水力電氣株式會社の社長にして又倶知安倉庫會社創立委員たり晝夜寢食を忘れ奔走しつゝあるを以て留守は恵次郎氏に於て萬般を整理せられ何等遺憾なく實に將來畏る可き大發展をなす可き素質を有せり

池本杢之助氏

基線通西十號　（電話五十四番）

倶知安に於ける生活上の狀態より食料に依る人体改良は農業の前途の章にて詳述せし如く前途最も注目すべき者にして屠殺場の盛衰亦茲に起因す即ち去明治三十九年四月十日屠場法の發布あるや屠殺場内の設備其他一般屠殺場の規定を設けられしより曩きに營業し來りたる岩内の如きは其規則の嚴重なるに驚き從來の權利を放棄するに至れり然るに池本杢之助氏は茲に見る處あり法規に基き明治四十一年完全なる屠殺場を新築し年々事業の發展を計りつゝあり最近に於ける屠殺の模樣を聞くに大正三年は牛三十八頭馬七十六頭豚百廿五頭大正四年度牛三十五頭馬百五十九頭豚百十六頭に及べり而して前年度に於ける總數二百三十九頭に對し大正四年は三百六頭に達し七十七頭の增加を見るに至れり之れ逐年需用の增加を證するものにして夕張炭山方面に二十餘頭の輸出あり尙黑松内地方にも販路を得且つ東倶知安喜茂別方面は昨年の大豊作に依りて需用の膨脹せし爲めなりしもの、如し如斯現象を來す可き將來を慮り多大の投資をなして遂に近傍の屠殺專有權を確保したる感あらしむ本年は冬季屠殺用として南部地方に到り牛十數頭を購入し來れりと將來有望の事業にして次第に發展する其先見の明ありしを感ず氏は資性溫厚にして曾つて人と爭論等をなしたる事なく町内の信用厚く事業は益々隆盛に向ひつゝあり

朽木清作商店

基線通中央市街　（電話七番）

倶知安の銀座通りとも稱すべき中央市街九號線の中央に宏壯なる米穀雜貨農産商店を見る是れ山三朽木清作氏の商店にして店舗の構造堅牢にして又大なる倉庫を有せり店頭商店の陳列の如きは極めて巧妙にして全く地方的色彩を脫し居れり氏は越中國射水郡新港町に生れ明治十九年渡道し明治三十五年中央市街地の將來に於て發展す可きを認め店を現住地に定め幾多の變遷を經て中央市街米穀雜貨商として當町一流の商店とはなりぬ氏は年齢未だ三十八歳の壯年なれど

も社交上最も味ふ可き氣慨を有し筆紙の及ばざる妙味あり目下倶知安町調査案員並に火防組合區長等の名譽職を有し居れり氏は北海道の豪商小樽高橋直治氏の店員たりし時專ら商機の秘術を研究したる結果獨立自治の念に富み前途有望の紳商に數へられつゝあり

㊂ 臼田米次郎商店

基線通り中央市街　（電話五十八番）

倶知安雜穀商業界に於て最も新進の士にして前途の曙光輝くは實に臼田米次郎氏なりとす氏は富山縣の人明治十二年九月二十二日を以て婦負郡草島村に生る年若冠にして大志を懷き明治卅年奮然志を決して岩内に來り二三豪商に就き商界の掛引を見習ひ誠實主に事ふること久し明治四十二年主家を辭して倶知安に居を卜し獨立經營の商店を開けり爾來多年の研鑽と先天的商才に依り敏活且つ巧妙なる商賣振りを發揮したるより嶄然頭角を現はし來り日と共に愈擴大せられ未だ開業十幾年にして斯界有數の雜穀商となるに到れり目下農産商組合副長にして青年有爲の商人なり尙前途一方の覇をなさんとするの氣慨を有するもの〻如し

請負業　堺惟一氏

營業開始以來十有餘年の間幾多の曲折を經來り漸次順境に進み新進氣鋭の請負師として推稱せられつゝあるは堺惟一氏なりとす氏は山口縣厚狹郡生田村に生れ幼年時代より鄕里に於て麒麟兒の稱ありし程にて學業の成績良好なりしが成年にして兵役を終り大志を懷きて舊北鐵線工事中狹間組に屬して渡島一意專心鐵道工事請負の道を研究し玆に獨立請負業者となるに到る故に鐵道工事に於ては專門的技能家にして其技量の拔群なる敢へて贅するの要なし工事中幾多の變遷を見るも堅忍不撓を實行し遂に其目的の彼岸に到達せんとしつゝあり而も其性行たるや請負師間稀に見る溫厚の人にして曾つて人と激烈なる論爭等をなしたるを聞かず而かも他人より論爭を挑むも殆んど馬耳東風的に避くるを常とす頭腦明晰にして年齡漸く三十三才文明的智識を有し將來有望の請負師として最も人に敬慕せらる

南河旅館　（電話三十七番）

倶知安驛前にあり總二階建和洋折衷の家屋にして倶知安第一流旅館の一なり館主故南河トク女將の養女はゞ女は養母の遺志を繼ぎ養子南河弘治氏と共に營業に勉勵し客を遇する上に於ては現主弘治氏其任に當り叮嚀親切細心の注意を拂ひ故老女將の營業風を繼續し居れり當旅館は岩

内南河旅館主南河正行氏の親族にして元分店の形式（隱居所）なりしがトク女將の物故せられてより現主に至りて宏壯なる新座敷を增築したり前女將は營業上熱心なる勉强家にして顧客に對しても叮嚀を主として什器類寢具等に至るまで最も心ろを碎き清潔を旨とし特色としては質朴且つ親切なるに勉めたり而して顧客は鐵道員諸官廳高級官吏より諸方面の實業家紳士を以て其大部分を占む同旅館は先代より床には必らず生花を飾りし池の坊熱心家にして之れに加ふるに骨董物、書畫等の高價品を以て客席を裝飾し旅客の徒然を慰むるの便に供し居たり光淋の屏風の如きは其最も秘藏中の珍品なり此の如く凡て優雅に勉め居れる爲め趣味ある顧客は絶ゆる事なく益々隆盛に趨きつゝあり現主人は十二月生れの三十八才にて青年成功者の一人なる可し

向山吳服店　（電話六番）

倶知安吳服店の老舗としては丸キ吳服店に於て最も古き歴史を有す明治三十五年古人曲ヤ支店藤林常次郎なる人吳服店を有球郡紋鼈の丸キ星野駒吉氏より買受け支店となし主任村井權八氏經營の任に當り（倶知安消防組最初の組頭）最も忠實に勉勵し大に營業の發展を謀り地方人士をして丸キ吳服店の存在を認めしむ氏は町の公共事業等に對しては私財を投じて盡瘁せられ其他の方面に向て活動を試み一も丸キ二も丸キの好評を博するに至り顧客最も信賴し來りたるも同氏は家事（子息開店に就き）の都合に依り支店主任を辭し漸次三代曰く本店緣者今井庫治本店令息星野喜七の兩氏交迭し大正三年現代向山政吉氏は星野駒吉氏より商品全部を買受け支店の名義を削り向山氏獨立の經營となれり氏は越後の國の人にて長く札幌丸井洋物店主任たりしを以て商業の機密を覺知し最も主人の愛撫する處たりき獨立して東倶知安に營業をなし來りたる際倶知安丸キ吳服店星野氏の切り上げにつき丸井今井氏の拔擇する處となり丸キ吳服店を引受くる事に決し現在の箇所に於て營業を繼續するに至れり而して店舗の位置は倶知安第一等の箇所にて氏獨得の商才を揮ひ居れり性溫厚篤實の人にして顧客に接するに細心の注意を拂ひ益々發展の機運に向ひつゝあり

大林東京堂　（電話七三番）

倶知安銀座通りと稱する九號線十字街に廣大なる二階建を有して全面悉く廣告を以て包圍し店頭數百種の賣藥店前整然として陳列せられ日々顧客の足絶ゆる事なき盛況を呈しつゝあるは倶知安一流の藥舗大林四郎氏の經營にかゝる東京堂なりとす氏は生粹の江戸子にして大都會商人

の氣風を發揮し顧客を誘致する一種特別の手腕を有す氏の實兄は東京小石川區に住し藥劑師を業とし當倶知安農場主の一人にして即ち大林農場を經營しつゝあるを以て東京堂主人も店暇を以て農場の管理をなし年々好成績を上げつゝあり東京堂は藥舗の外に紙文具類小間物化粧品等の販賣を兼ぬ仕入先は東京實兄本舗の手を經て輸入をなす爲め新流行品多く殊に廉價なる爲め顧客爭ふて店頭に集るの繁盛を極めつゝあり年齡春秋に富む有爲なる青年紳商の一人なりと云ふ可し

千八友田角太郎氏

（電話六六番）

雜穀商として町會議員として町内の重鎭たり一見溫厚なる如きも其性熱烈にて誠實なる氣風あるが故に人呼んで熱誠兒と云ふ氏は民團氣風を維持し常に拓殖上に意を注ぐ事甚だしく一面町公共の事業には寢食を忘れて東奔西走至らざるなし氏は石川縣より加賀團体なるものを組織し倶知安字下ソースケに移住せし即加賀團体長たり移住後は開墾の傍ら商業を營み團体内の信望最も厚く二級町村制執行當時以來團体より推薦せられ村會議員として三度も當選し目下町會議員の公職を有せり氏は常に團体民を愛撫し加賀團体に於ける名望家としては甚だしき信頼を受け居れり氏は佛敎の信仰者にして大谷派圓融寺の創立には勞力と資財を投じて建築し今尙ほ檀徒總代たり氏は六月廿九日生れの本年五十一才にして石川縣能美郡寺井村に生る娛樂は圍碁にして三度の食事よりもと云ふ風なり

石田寫眞館

館主石田宗一氏は山口縣都濃郡富田村に生る明治四十一年渡道し幾多の浮沈は斯業成功者の位地を占むるの基礎となり遂に今日の隆盛を來し一廉の蓄財を成すに至れり氏の半生に於ける百難よく忍び同業者續々開業するも意とせず一意專心技術の進歩にのみ勉勵し敢へて競爭的の營業を爲さず吾が技術の價値を認めたる顧客に接するのみなりしも卓越せる技術の競爭は次第に効を奏し今に於ては撮影の顧客は貴賤の別なく殊に花柳界の美人にして此館に姿を殘さざる者なし昨年蝦夷富士百景を映寫出版せしが技術の巧妙なる一見驚歎せざるものなし、氏は社交界の活動は又最も圓滿にして業務は目下獨專的の有樣にて一人の强敵を認めずと雖も將來は決して獨專を許さざる可し勉勵以て舊態を維持し技術の天職を忘る可らず

㊙進藤金物店

（電話本店七二番　支店二四番）

倶知安の銀座通りとも云ふ可き中央市街に於て近年宏壯なる店構をなし大なる石造倉庫を有し店頭狹隘を告ぐるが如き商品を陳列し文明的裝置をなし盛んに發展をなしつゝあるものは丸甲進藤武氏の金物店とす同店の本店は岩内にあり信用最も高く各地に支店を設け左の營業種目を賣買す銅、鐵、其他貴金屬類、機械品一式、電氣用品、建築、土木用品、農具、度量衡器等の販賣にして始め此の地に來るや田中富吉の經營せし金物店乾文七の經營せし目下の金物店等を買收し中央市街獨專の地盤を作り續て停車場通り名畑長太氏の金物店を買收し（目下の支店）益々發展を計りつゝあり目下昆布驛狩太等に大なる支店を有し其勢力當る可らず目下支店は倶知安本店進藤英丸氏專ら其經營の任に當り倶知安金物業者間に一頭角を顯はし居れる大商店なり

旭　旅　館　（電　話　一　番）

倶知安停車場プラートホームを出づるや第一に目に入るものは旭屋旅館とす館主山田槇藏氏は阿波の人にして鐵路開通の當時より旅館を營み居たるが一度倶知安稀有の大火の爲め罹災し直ちに又大規模の旅舍を新築し倶知安に於ける一流の旅館の一なり客室廣大にして多數の客を入るゝを得而して同館は停車場に近き位地なるを以て旅客の爲めに最も便利なるより倶知安驛昇降の顧客宿泊するもの頻繁にして殊に隆盛に趣きつゝあり同館の特色は清潔にして食事に注意し乘車客の時間に對しては最正確なるを期する爲め諸官廳の高官諸氏を始め各方面の實業家紳士縉商を以て大部分の顧客を占む尙館主は副業として木材及鑛山事業を營み居るを以て函樽地方の關係者にして投宿する者多く非常に繁昌し居れり

林　吳　服　店　（電話三十五番）

倶知安開發第二次の市街基線西六號線に宏壯なる吳服太物店あり店主林傳彌氏は先天的に商賈上の智識を有せりとの評ある江州の人にして殊更吳服店は滋賀縣人の特有物と迄推稱せらるゝものありし時代の勤勉家なり明治三十五年頃より倶知安に來り店を現在の箇所に卜して吳服店を開業す氏は溫厚の人にして諸人の信用厚く公共の事業に熱心にて自治制施行前は村總代に擧げられ二級町村制の施行せらるゝに當り村會議員となり今又一級制となるや擧げられて町會議員の公職を帶ぶ氏は町内にて最も名望高く黨派的爭論を避け中立主義の方針を以て町是を斷ず資性溫厚にして篤實常に中立主義を標榜して町の融和を謀る可き一偉人として目せられつゝあり氏は文久二年八月二日の生れなり

中山貞作氏

（電話五十五番）

人世行路の多端なるは世人よく是れを知ると雖も百難を排して身を立つるは甚だ難く之れ堅忍不撓の鞏固なる信念の發動に出でざる可らず倶知安驛前に於て青年の成功者として紹介せんとするは中山貞作氏なる可し構内販賣の呼聲高く賣物過半は獨專的繁榮を來しつゝあるは氏の經營にかゝるものたり年齡漸く三十七才明治十三年一月一日鄕里越後國刈羽郡中通村に生る嚴父新平氏の二男にして青年の頃より大志あり常に海外に遊びて獨立の意志を貫徹せんと志し飄然國を去りたるは實に明治四十年の春なりき雲山數百里の異鄕蝦夷地の西岸岩内に渡島し二三商店の店員となり大勢を觀取しつゝありしが倶知安の地次第に繁榮に至るべきを見るや當町に轉住し旅人宿の營業をなすこと年餘折柄偶々待合讓渡の交渉を受け即時に決定し今日に到る目下收入の多き事想像外にあり聞く一年の内過半は一日百圓内外の收入を獲得し世人の知らざる貯蓄等ありて益々發展の機熟したるものゝ如し僅か十年に滿たざるに如斯順境に入り成功したるは只堅忍不撓の賜物と謂ふ可し是れ倶知安青年成功者の一人として賞揚するに足る令閨ツネ女當年廿八才二子を擧ぐよく主人の營業を補佐し奉口人を愛撫し一家の和合を計り居れり

倶知安狹斜巷

倶知安花柳界の繁盛し居る事は殖民地として其實例少なからずと雖も開村後二十餘年を經過せし今日に於て尙如斯繁盛を極むるは異數と云はざる可らず、開村後十年目にして始めて不可思議なる料理店の開業を見爾來十有餘年の間新陳代謝的に營業者は變更せしも目下總數二十五戸藝妓酌婦百名内外艶か麗か嬋か妍か相反映して不斷の春を誇りつゝあり柳の影こそ暗けれ紅燈火影眩ゆくして絃聲歡語賑はしく何れの旅亭も相應に繁盛し居れるが今其主なるものを揭ぐれば左の如し

秀清樓（電話四十番）

倶知安に於ける旅亭としては一流のもの二軒あり即ち其一を秀清樓とす宏壯優美なる建物と廣大なる庭園とを有し雅致に富むの結構一見嫖客を驚かすは秀清樓なり當主人尾上儀三郎氏は北海道福山に於て明治九年二月廿六日に生る一の氣骨ある快男子なり幼にして商業の盛なる大阪の商店に入り商業を以て將來大旆を押し立てんとする大志ありしも壯年見る處あり狹斜の道に

暗き氏も心機一轉し旗亭の有利なるを悟り幾多の波瀾を經し後遂に今日の隆盛を見るに至れり氏は義氣に富み好く儲け好く散す其の散するに當り見る可きもの多々ありと雖も公共事業等に就き一朝事起り相談するや卒先して寄附に應じ決して人後に落ちす尙ほ營業に對しては奮鬪的男子にして本年も數百の金を投じて內地各料理店の客の取扱ひ方及び料理其他營業に關する視察として內地に遊ぶ事殆んと一ヶ月半其周到なる用意實に賞するに足る目下藝妓並に年期娘養女等計十二名を以て宴席を飾る一面女將は亦客取扱ひに特種の妙技ありて踊る跳る騷ぐ泣くぐたまく客も女將に對しては唯々諾々たるのみ而して年期娘養女等の養成に心を用ゐ熱心以て營業の援助をなす一年中の所得實に壹萬圓以上の收入に達すると云ふに至れり當地に於ける公私宴會は二大旗亭の專有と云ふも誣言にあらざる可し夏季庭園を逍遙し四阿屋にて一盃傾くるの時巍々たる羊蹄山は雲表に聳え眞如の月は東天高く艶姿を揭ぐるに於ては實に仙境に遊ぶの思ひあらしむ尙近く西洋室を新築すべしと是れ氏が內地土產の一なりと

喜樂亭　今井スイ女（電話二十四番）

倶知安狹斜界の一流旗亭の一たる喜樂亭は創業十有餘年を經過せしものにて最も誠實勉勵せしを以て今や好果を收め日々隆盛に趣きつゝあり同亭は營業開始以來停車場前に於て前後二回の大火に遭遇し家屋器具全部を燒失す昨年大火の如きは火元最も近く損害壹萬圓以上に達せり先代主人今井勘吉君は商業界の人にて此道に通達せざりしが一旦營業を開始するや熱心以て貯蓄をなし昨春初老の祝賀をなしたりしに不幸にして六月大火に罹り爾後病床にありながら大規模の建築に掛り壹萬圓餘を投じて目下の家屋を建築し十一月上旬落成式を擧げ祝宴を催し一場の挨拶をなす身は且夕に迫まる命とも知らず病を侵して將來を語る然るに十二月三十一日此快男子に天命を借さず遂に黃泉の客となる氏は佐渡國の產にして呉服店より漁業家となり遠洋漁業を開始し次で幾多の失敗と蹉跌を以て歷史を飾り遂に料理店を開業せり而して函樽間に見る事能はざる程の一大旗亭を造り遂に二豎の爲めに斃る其生存中に於ける波瀾曲折に對する神出鬼沒の行動を見るに實に一箇の奇男子なりき目下の女將は同氏の妻にして勘吉君の遺志を繼續し漸次發展の策を講じ目下藝妓並に見習年期娘等併して十名山海の珍味は料理人の手により供されれ女將の指揮に紅裙連顧客を遇するに遺憾なし而も倶知安に於ける大宴會は秀濤樓と併立して賑盛を極む殊に旗亭の規模の大なる事倶知安に於ける呼物の一たり

奥光太郎氏（電話二十九番）

倶知安青年の奮闘兒奥光太郎氏は明治十一年七月三日滋賀縣大津市上百石町に生れ明治廿五年京都三條新町紙類店にて商業の見習をなす然し將來獨立獨行の志ある爲め人に使役せらるゝを潔しとせず三十年遂に實父の營業を補佐す可く大津市に歸り誠實に金物店の經營に從事し父を助くること六年の久しき間なりき氏は遂に志を決し三十七年八月二十日北海道札幌の緣者を訪ひ情況を觀望しつつありしが倶知安の急速度を以て進展するを聞き三十七年十一月此地に來り直ちに五十集業を開始し先輩同業者と大々的の競爭を試み殆んど寢食を忘れん計りの奮闘をなし居たるに四十一年の大火に際し不幸類燒の厄に罹り再起の望みなき打擊を受けしも胸中堅く信ずる處あり營業を再起す然るに時運は此奮闘兒に一の使命を與ふるに至る之れ倶知安の魚商組合を設置の事業なり氏は松岩秀藏、渡部孫市氏等と相謀り遂に魚商組合を組織し渡邊氏組合長となり氏及び前記二名は共に幹事たり一年の後氏は組合長に擧げられ今日に至る而して一面魚市場開設の急なるを自覺し三浦松岩氏等と協力し魚市場を設け土地の富豪阿部半平氏を社長に推し日々隆盛に趣きつゝあり而かも信用最も厚く目下魚商組合長魚市場監査役並に魚菜組合幹事として益々奮闘を繼續しつゝある將來有望の青年商人たり氏の娯樂は謠曲なりと

㊇ 高橋住三郎氏　（電話二番）

氏は倶知安に於ける青年成功者の一人にして明治四年四月十七日山梨縣北巨摩郡清春村に生る明治廿六年小學校本科准教員となり傍ら養蠶改良の目的になる高山社養蠶傳習部に通ひ三ヶ年にして全科を卒業す（高山社は今の群馬縣立藤岡養蠶學校の前身）氏は養蠶事業を目的として卅四年六月渡道室蘭郡幌別に至り種々なる計畫をなせしも目的遂に齟齬し茲に商業界に身を投じ金物店の店員となるに至れり偶々舊北鐵線の起工するを聞くや倶知安に來り居を當町字峠下にトし金物店を開業せり峠下は北鐵線の難工事倶知安隧道の東入口にして石工坑夫入込み最も繁榮したり此間に立ちて氏は單身にして諸事を辨し一ヶ年の間獨身生活を續け幾多の辛酸を嘗めたりしも遂に令閨を迎へ目下長男十三歳長女十歳の二兒あり而して隧道工事終了を告ぐるに至るや基線通り西十號に居を構へたりしも一昨年停車場通りに移轉し廣大なる金物店となりぬ氏は溫厚質朴の人にして秩序的に成功しつゝあり決して山師的の行爲を爲さざるものゝ如く青年の成功者としては最も尊敬す可き一人なり尙ほ近頃に到り東倶知安に魚菜市場を設立して其重役たるに至れり

玉 松岩秀藏氏　（電話百〇七番）

明治十三年十月十日新潟縣佐渡郡松ヶ崎村大字丸山に生る明治卅四年第二師團第十六聯隊に入營し現役を終り意を決し岩内に來り商業見習をなし將來商業に從事せんとする刹那日露の國交は破れ動員令は公布せられ氏も亦第一豫備として召集せらる明治三十七年二月十一日新發田第十六聯隊に從ひ第三軍旅順攻擊軍として六月二十日土佐丸にて宇品を出發し遼東半島張家屯に上陸劍山の戰を始めとして各所に轉戰し九月十七日より二〇三高地の大激戰五日間の大奮闘に加はりたりしに後備十六聯隊は殆んど全滅の悲境に陷り退却後十一月病氣の爲め廣島に歸還され加療全快の後明治三十八年五月六日再び金州に上陸して滿洲軍に加はり各地に轉戰し苦辛を嘗む平和克復の後渡道倶知安に來り專ら五十集業を營む當地に於て始め魚商組合を組織するや氏は奥光太郎三浦台藏氏等と心を合せ創立に奔走し尚ほ魚市場創立に際しても以上の三名と相携へ相計り以て今日の隆運を見るに至れり目下魚商組合の幹事にして五十集業者の三古老店舗の一なり

奥村健吉氏

（電話三十九番）

舊北鐵線の開通すると同時に最も人の注目したるは運送業なりし然れども運送業者は荷主より

の貨物を中繼すべき重大なる任務を有すべき商業なるを以て零碎なる手數料に依り貴重なる貨物を取扱ふべきを以て最も頭腦明晰微少の金も消費せずと云ふ主義の人に非らざれば成功するに至らざるべし然るに奥村健吉氏は明治九年五月六日鄕里越後國に生る性奇才に富み萬能主義の人なりし爲め種々なる誘惑に陷り迷惑を受けしも天此奇男兒を永く誘惑の手に任するに忍びず遂に運送業の開店を見るに至らしめたり而して氏は事業開始後三四年來專心營業に心を碎き業務の進展を來し營業開始當時の微々たる營業は君が經營の宜敷を得たる爲め急轉直下荷主の信用を博し日々隆盛に趣きつゝあり營業狀態は迅速敏活に輸出入物貨の取扱ひをなし多くの取扱物貨に對しても細心の注意を拂ひつゝあるを以て荷主は最も信用を置き年々取扱ひ物貨の數を增加し確實に進展しつゝあり氏は性磊落にして大志あり奇才を社交間に應用し一種侵す可らざる特殊の心情を有するものゝ如し

野村俊明氏

（電話二十七番）

商業界に於ける唯一の機密は普通人の容易に其奥儀を知る能はざる事に屬す而して之を知り之れに通ずるには最も至難の事なり然かも敏活に商機を捉へ機先を制するには天然の奇才を應用

するにあらざれば難かる可し北海道小樽港は内地との商取引頻繁なる土地にして内地の神戸大阪に類す君は此商業の殷盛なる活舞臺即ち小樽港に於ける大商店丸越早川商店の店員として年久しく其商機の奥義を見學し其天賦の奇才を研磨したり玆に倶知安村の將來に發展す可き事を豫想し此地に來り基線西九號線通りに獨立の紙類茶文具類商店を開き傍ら小間物並に化粧品等の販賣を兼ねたるに開業後稍々顧客に知られんとする際學校教科書賣捌店を引受けたる爲め一時に丸越の店名は高まり教科書は勿論文具類は云ふに及ばず其他の物品の販賣增加し近年に至り實に異例の發展を見るに至る氏は實利主義の人にて營業に敏活なり明治十一年十一月十五日の出生にして目下倶知安衛生組合第二區々長として公共の事業に奔走せられつゝありて將來有望なる紳商なり

富永農場

當町字樺山農場主富永寅次郎氏

元弘の役蒙古の兵對島に來りし際の大海戰は大和民族の腦裏を放れざる歴史の現象なり近くは日清海戰ありし際の花形將軍樺山資孝氏は不思議にも北蝦夷の拓殖に心を置かれ軍事上最も趣味ある倶知安の地に樺山農場なる遺跡を見る然るに次第に農場は轉賣せられ不思議にも開國第三役日露大役の對島海峽に於て海戰に參加し其武名を揚げたる海軍休職中佐富永寅次郎氏が此第二役の參加者樺山氏の農場を買受け經營せらるゝと云ふ其因緣が宇宙の心理が將た天の配劑か考ふれば考ふる程不可思議の念悶え難し、西古安別の山麓に沈思默考農場の經營に餘念なき富永氏は鋤鍬取りし身にあらねば經驗も無れば夢にだも見し事なかる可し榛葉道を淹ふ其農場に住し前住古老の農民に指導せられ傍ら種々の農業要書を漁りて土壤の改良作物の改良に苦心せられ昨年始めての着手に理想の馬鈴薯栽培を試む亦農業は農業のみにて事をなすものあらざる光明を見出し農業の余暇を以て工業をなし以て兩ながら併立して成功の彼岸に達するを覺悟し幸に所有地内の谷山の水を利用し澱粉の製造を企圖せられ第一昨年の馬鈴薯栽培に對し肥料の鹽梅を計り一反歩平均貳圓五拾錢の肥料を投じ其收穫せし馬鈴薯は一反歩四十俵と云ふ破格の收穫を見玆に倶知安農民の無肥料作付けをなし其不成績者を驚かし益々肥料の鹽梅に注意し本年の如きは百四十町歩の農場は八九分馬鈴薯を播種せられ肥料の如き實に擴大なる資を投す目下澱粉器械の改良す可き事を見出し製造中なりと聞くが昨年の收穫全部澱粉に製造せられ市場に運はれたり其結果非常に良好にして農産物に加工し價格を上騰し販賣をなす爲め從來の農

業とは其收穫の增加せし事之れ美はしき倶知安の現象と云ふ可し一面肥料の好果を顯著に示し他農業家を覺醒せしめられたるに到つては無肥料農家は顏色なかる可し氏は未來に土壤改良及肥料の鹽梅を實驗し倶知安農業界の革正をなさんとの大志を懷き細心注意に注意を拂ひ農業に從事せられつゝあり

伊藤助治氏　農業家

若年にして父母の慈愛の手より放れ異鄕に來り獨立の志を懷き艱難不撓の實を擧げ僅々十數年にして相當の位置と資產を造るに至りし奮鬪兒を當町々會議員伊藤助治氏とす氏は明治八年八月十五日富山縣西礪波郡石原村に生れ同廿六年實兄を尋ね瓢然國を去りて札幌に來る氏の實兄は陸軍大尉伊藤吉太郎氏なり而して實兄方に寄寓して將來の方向を熟慮し在りし氏は同二十八年倶知安村の倶知安區劃割を實行し土地の貸下を公布するや直ちに出願をなし三十年倶知安に移住せり爾後幾多の辛酸を嘗め開墾に從事し勤勉以て貯蓄をなす偶々長兄吉太郎大尉三十七八年の役に九師團に從屬し遠征の途につき各地に轉戰しつゝあるに當り金參百圓を獻金して出征中の長兄を激勵したりしに不幸にも吉太郎氏は万龍山の總攻擊戰に奮鬪し遂に敵刃に斃るゝに至れり然れども氏が獻金の行爲は國を思ふ兄を思ひ一擧兩得の至情にして實に美事中の美事に屬す町內に於て最も名望厚く而して氏の今日あるや第二期村會議員擧選の際部落より擧げられて村會議員となり目下一級町村制施行せらるゝや町會議員の公職を存し一意町政に盡瘁せられつゝあり

本力一宮伊三郎氏　（電話三十二番）

明治卅七年北鐵線開通せられ函館小樽兩港間の中央に位する陸產物の集散地倶知安は時勢の要求に伴れ停車場の設置を見ると同時に運送店の必要を生じ本力運送店なるもの山田邦吉氏の手に依つて開始せられぬ一宮氏は明治三十九年十月渡道直ちに近緣の關係上運送店の店員として凡ての營業を擔當しありしに四十一年七月十日の大火は運送店全部の類燒を受け同月同日山田氏と分離し獨立營業を開業するや幾多の顧客は競ふて集合し次第に財政家屋共に整頓し來り事業益々發展しつゝあり氏は明治十二年十二月廿三日德島縣名西郡石井町に生れ二十七年十一師團伊豫松山豫備病院に勤務を命ぜられしが平和克復と共に休職となり其後直ちに渡道し前記の業を營み遂に產を造くるに至れり氏は子福者にして目下四人の子女を有す、營業振りは誠實勉

強にして敏活に荷主の便宜を計るを以て信用あり實に模範的運送業者なり

㊧ 兵庫善治氏

勤勉と忍耐は言ふべくして容易に實行する事難く實に出來得べからざるものなり然るに此難事に勝ち得たる青年は倶知安中央市街丸兵印兵庫善治氏なりとす氏は明治十五年佐渡國佐渡郡二宮村字眞光寺に生る年僅かに廿一才の時即ち明治卅六年三月渡道し壽都に上陸し同十月當倶知安に來住して豆腐製造及雜貨商店を開けり偶々倶知安消防組の組織せらるゝや消防手となり十年此の方非常召集に欠勤したる事なく四十二年消防組より其勤勉を表彰せられ引續き滿五ヶ年以上勤續者として其筋より賞與を受けたり今や倶知安消防組第一部の小頭にして營業は日に盛大に趣きつゝあり多數の雇人を使役し顧客をして少しも不便不平を感ぜしめず一面公職の任務に勉勵にして曾つて一回も缺勤せし事なく即ち勤續表彰の認むる如く性温厚にして職務に忠實なる青年消防小頭の一人なり

㊧ 名畑長太氏

倶知安に於ける金物商店として名を知られ來りし丸八印名畑長太氏は明治九年七月新潟縣佐渡郡眞野村字竹田に生る成年に達するや商業を志し明治三十二年渡道岩内に上陸し爾後倶知安の有望なるを認め基線西六號に居を卜し金物店を開業し三十九年部落の信用を集めて村會議員に擧げられしも病氣の故を以て辭職す性温厚にして營業に最も熱心なるも病魔屢々襲來り殆んど身体の自由を失はんとするの不幸に陷りしより金物店を丸甲進藤氏に讓り大正四年其筋の許可を得て火藥庫の設置をなし大正四年九月落成し目下銃砲火藥販賣店を業とし傍ら質屋業を營みつゝあり前掲火藥庫寫眞は即ち氏の經營にかゝるものなり

金岡貞榮氏　（電話二十二番）

明治四十年煙草專賣局小樽賣捌所に於て倶知安に支店を設くるや氏は其選に當り居を基線通西九號に卜して傍ら米麥卸賣店を開始し非常なる廉價を以て販賣するや顧客東西を問はず遠路店頭に集り繁榮をなし大なる家屋の新築をなすも尙ほ狹きの感あらしめたり其後煙草販賣業を廢業するや農産商に注目し兩三年盛んに發展を試み今尙ほ盛大に營業をなしつゝあり氏は一種侵すべからざる氣骨漢にして營利に敏く從つて事業界に心を注ぐ事細密なり當地に於ける輸入酒

類の多量なるに着眼し酒造業を開始せんとし營業所を基線西十一號六十五番地にトし用水の試驗をなしたるに最も適當の成績を得たるより目下酒造庫其他の家屋建築中にして本年中に造込みに着手すべしと我倶知安にても醇良なる地酒の味を知るに至るべし

澤田義三郎氏　（電話五十六番）

倶知安に於ける商業界に在りて政黨的頭腦を以て人に知られたるは澤田義三郎氏とす氏は目下倶知安町會議員の一人にして尙ほ倶知安水力電氣會社の重役たり始めて町内に政友同志の二派起るや氏は同志會系に屬し最も中心的人物となりて奮鬪したる人なるも町内に於て黨派的關係を以て町是に當るは利少く害多き事を自覺するや斷然同志會を脫會して專ら町政の發展を計るに至れり偶々實弟澤田利吉氏道會議員の候補となり同志系に屬し出陣するや兄弟の情默し難く同志會否實弟の爲め奮鬪せられたるも政戰終ると同時に無所屬主義を以て世に處し黨派的感念を去り町の爲め活動せんことを宣言し居らる營業は米穀雜貨荒物店にして日々隆盛に趣きつゝあり

能登庄吉氏　（電話　番）

岩内にて一代の奇商と定評高かりし故山十一小森留吉氏の近縁の人にして商機凡て故小森氏の氣風を受け遠大の希望を有し冒險的奇利を得んとするの風ありし爲め再三再四失敗と蹉跌を以て半生の歷史を飾り大に經驗を重ね其終局に及ぶに當り幾多の蓄財をなし再起を豫定して倒る氏は性格進取的奮鬪家なる爲め失敗は商人の低氣壓なりとの自信を有し千變万化時勢と苦鬪しつゝありしが本年基線線りに廣大なる家屋倉庫を新築し合資會社なる名稱のもとに米穀雜貨肥料等の卸賣を開始し日々隆盛に趣きつゝあり未だ青年商人にして充分發展の餘地を有するを以て幸に自重せられよ

眞鍋濱三郎氏

倶知安に於ける一代の富豪を以て羨望せられつゝあるを眞鍋濱三郎氏とす氏は德島縣美馬郡里村に於て文久二年三月廿日に生る父は酒造家にして眞鍋佐平氏の二男に當る明治七年親族川原彥平氏の養子となり同十八年群馬縣にて一時官海に身を投じたるも將來は實業界に身を立てんと廿二年復籍し直ちに兵庫西ノ宮町に於て父の業をつぎ酒造業に着手したるも不幸にして目的を達せず其後決する處あり廿五年三月鄕里に歸り近親に別を告げ遠く北海道に志し四月五日小

樽港に上陸し同月十日岩内郡小澤村南部茶屋に投宿し同志の人々と相謀りクチアン開墾假事務所を置き小澤クチアン間の里程を測量したり而して其同志山本彌平、田中宗八、松原新吉、福山要藏、野口鐵藏氏等外高橋末吉、藤澤熊吉氏等を雇入れ小澤を去る三里十五丁と測る可き箇所にて全く日沒に至れり（今の停車場の西クドサン川の西川岸）其夜即ち四月廿日露營する事に決し棒葉樹の下に野火を焚き一夜を明す翌朝に至り始めて積雪の量を見るに雪上の野火次第に雪消え其深さ四尺五寸なりしと其後小澤村假事務所に於て同志を結合し倶知安に入山し苦心經營開墾の下準備をなす翌明治廿六年一月を迎へ爐を圍み酒宴をなしたるは實に左の諸氏なりし阿部半平、山本彌平、仁木宇藏、山田邦吉、小松山三郎、仁木辰三郎、石井收平、山田幸吉福山與藏、藤本嘉藏、森内九平、筒井種吉、黒田房吉、岡部春吉氏等都合十五人なりしと云ふ次で廿六年三月廿日室蘭地理課派出所續技手出張東無意念山脈を界とし南ニセコアン別川眞狩別川北は稻穗峠山脈西は小澤村及ニセコアン別川をクチアンの境界と定められたるも御料林解除迄は無願開墾にして殖民の道路もなく其困難なる事筆紙の及ぶ處にあらざりき如斯辛酸を嘗めしは氏一代の富豪と化するの基礎となり晝夜晴雨の差別なく開墾の實を擧げ倶知安開發の機運到來するや氏の所有地は倶知安停車場と確定し地價は上騰し蓄財は次第重なり遂に今日十万の豪富とはなりぬ目下子供を教育すべく札幌北七條に假宅を設け專心子供の教養を樂しみ居らる嗚呼艱難汝を玉にすと宜なる哉

一代の富豪阿部半平氏　（電話二三ノ甲番）

倶知安に於ける寵運兒二三ありと雖獨立の志想堅固にして百難を排し勤儉精勵志を貫徹し倶知安一代の富豪となり半生勤儉を實行したる反對に今や急轉直下以て町の公共事業に身を僂し狂奔到らざるなきを阿部半平氏とす氏は明治元年十月五日德島縣麻植郡愛島村字小島村に生る青年時代より獨立的志想を有し茲に同志の友と諮り明治廿五年北海の地に來る倶知安草分時代の最も古き青年の一人にして（第二章の一項第四章の二項參照）同志と共に倶知安の大原野に入山し勉勵困苦克く忍耐業務に堪へ階段的蓄財をなし目的の彼岸に達したり今や蓄財拾万を數へ魚市場を起し五十集業者を統一し資本の運用を助け今や倶知安に於ける事業界の明星を以て目せらるゝに至る而して又倶知安水力電氣會社起るや專務取締に擧げられ自家の事業を放棄し一意專心業務の任を全ふしたる結果本月中に點燈の運びに到れり是等は事業家の胸中を推測する時は其胸中の煩悶や忍耐は普通人の豫想だに及ばざる艱難の伴ふものなり然るに此百艱を耐へ

事業を完成せしめしは氏の力實に大なり其他金融界にありては種々なる方面に投資し事業家を助け完成を計らしめつゝありて倶知安の發展に資する處偉大なるものあり氏は夫婦間に子なく常に舍弟直太郎氏の愛兒を我が子の如く愛し徒然を慰めつゝあり氏の娯樂は義太夫圍碁等なり

雜穀商　石井彦三郎氏

倶知安北部の重鎭として阿部道會議員を除く時は先づ以て氏に指を屈すべし氏は溫厚の人にして曾つて人と爭論をなしたる事なく營業上取引の關係にて不利に陷る場合と雖も隱忍以て爭を避くる倶知安稀に見る篤實家なり氏は安政六年十月朔日愛知縣知多半島知多郡金澤村大字羽根田に生れ明治廿九年北海道に志を懷き渡道し岩内に上陸し倶知安第二回區劃割當時倶知安に來り現在の地に住す雜貨荒物店を開き北方面に於ける物質の供給をなし傍ら農作物の仲買をなし漸次產を興し目下蓄財二三万に達せり氏は曾つて人に語つて曰く市街にて營業發展を計りては との勸誘を受くるも余は此地此箇所にてどうにか成る樣になりたれば營業を廢する時は市街に出てゝ隱居寺參りをなすべしとて却て市內店頭を飾り突飛的營業を爲す者を誡む氏は一度交りを結ぶや次第に濃厚となり眞實の親族の如く交際し居るに見るも如何に氏の溫厚の人たるかを知るを得可し

山上養鯉園

園主　山上琴次郎

人生生活の基礎幾度となく變轉し來る事は新開の地に於いて多く見る處なるも概ね父の業を株守するとか一度なせし營業を不振ながらも固守する陋弊あるは皆人の認むる處なるが其境遇其機會に於て千變万化の營業をなし其の成功を見るに機敏なるは山上琴次郎氏の如きはなし氏は香川縣に生れ菓子製造業をなす居たるも舊北鐵線の開通工事に取掛るや小澤村に來り本職の土工の中に加はり多數の人夫を使役し線路工事の受負をなし遂に完成して數百圓の貯蓄をなしたり次いで旅人宿を營み尙引續き料理店に轉業し蓄財の出來るや廢業して亦受負業をなす偶々小樽木材會社の盛大なる時に際し樽木との指名契約に依り輕便線路の受負をなし莫大の利益を得益々隆盛に趣かんとするに際し不幸失火に依りて全燒せり而して氏は此時旅行中の事とて一品も出す能はざる不幸の火災に遇ふ氏は玆に於て大に思ふ處あり居を市街地にトし天然の古河を利用し堤防を作り養鯉の業を起したりしが今や市場に賣り出さんとする折柄尻別クトサン川の氾濫の爲め流出せしめ更に堤防を修繕するも二大河川の水は到底人爲を以て堰止め難きを覺り

茲に居を六號線に移し廣大なる養鯉池を造り年々事業を擴張して昨年以來小樽中央停車場前に養鯉賣捌所を設け當町より輸送し販賣をなしつゝあり目下の處にては販路を擴張せざれば倶知安及び小樽にては容易に賣り盡されざる程に增殖せりと前掲寫眞は其全景にして春の舟遊秋の觀楓會等は三々五々と相集り一の遊覽場の感あらしむ一度此養鯉園に遊び眼前の羊蹄を仰ぎ一瓢を傾くる時の感實に筆紙の盡すべき處にあらず

森佐平太氏

住み馴れし墳墓の地を去り雲外千里の波濤を破り來りて便り無き荒砂の上に生活し一代にして一廉の蓄產をなすは容易ならざる事なる可し森佐平太氏は香川縣三豐郡神田村に於て元治元年に生れ青年時代より獨立の志を立て明治廿四年三月北海道有珠郡壯瞥村に來り十三年間開墾に從事せしも土質理想に適せず何れの地か適所あらんかと考慮中同郡內倶知安は旭日沖天の勢ひを以て發展し移住者益々增加するを聞き遂に廿八年春四月十五日家族を纏め倶知安現住地に移る廿七八年戰役の爲め人氣到つて旺盛なるも東西皆不知の人のみにて腦中の苦痛言外なりしと云ふ其寂寞たる新墾地に於て一屠氏の力を强からしめ一意專心開墾に從事し漸次一戶分を（一万五千坪）成墾するや又二戶を買ひ三戶四戶と年々買集し目下三十餘町步の農場主となりぬ氏は如何なる事情あるも自作制を主義として手の屆く限りは人夫を雇入れても自作すると云ふ氣慨を有し其素志を貫徹持續しつゝありし結果農作物の暴騰に際し昨年は數千圓の收穫を得今年も亦數千圓の收得を見るに至る是れ勤勉の賜物にして從來農家の薄志弱行的人物の模範とす可きものあり中には一度不作に出遇はんか自暴自棄の念を起し東に奔り西に走り何等得る處なく年中貧苦と戰ひ徒らに人の出世を羨望するもの其數枚擧に遑あらず氏の如きは本道に於ける農業成功家の一人なるべし

二階堂喜三郎氏　（電話三十三番）

青年志を立て二十世紀の新舞臺に活躍せんと企圖するは冒險なり否寧ろ危險なりとは皆人の是認する處なり然れども年僅か十七歲にして單身獨立の志を立て遠く北海道に來住し其目的を達したるは青年成功者倶知安の二階堂喜三郎氏とす氏は明治十七年十二月福島市神馬町に生れ實母と共に同縣信夫郡野田村に移轉し明治三十二年僅かに十七歲一人の實弟を伴ひ北海道石狩國上川郡鷹巢村に移住し木材業に從來したるに幸に巨利を得一旦墓參を兼ね歸鄉せんとするに際

し東倶知安カシーフニーに大原野の耕作地あるを聞き該地に團体移住を企て明治四十年十二月許可を得同四十一年六月戸數二十二戸と共に再度の移住をなす是れ目下の福島團体なり東倶知安カシーフニー切開は當時として樹林の始末に窮す茲に於て曾つて上川にて修得せし木材業を開始し樹林を伐採し移民に耕作の便を與へ一面木材業に依り利益を得傍ら移住者日用品の供給を補充す可く米穀雜貨商を營みしが數年ならずして相當の資産を造くるに至れり氏は青年時代より覇氣に富む性情を有し此山奥の僻地に一生を送るを潔しとせず茲に大正三年巨資を投じ基線西九號に移轉し倉庫家屋を建築して前住地方面の雜穀を買入れ本年は非常の好成績を得たりと今や氏は倶知安商業界に發展をなす可く頻りに畫策しつゝあれば將來有望なる青年商業家として倶知安商業界の花形たるに至るべし氏よ幸に自重自愛せよ

倶知安水力電氣株式會社

社長	關口茂平	氏
專務取締役	阿部半平	氏
取締役	伊井・億右衛門	氏
同	澤田義三郎	氏
同	河合敬勝	氏
監査役	萩田清平	氏
同	中村與三松	氏

倶知安に於ける電氣會社の設立は十年前より問題の一として有力者有志者間に畫策されつゝありし折柄小樽の人稲積豊次郎氏外十九名にて後志川水力電氣株式會社なるものを起し東京に事務所を設け專ら活動し來りたるも鳩山和夫氏（大株主）死去後一頓挫をなし往年月日は遷延せられ何時倶知安に於て電力應用の事業をなす事を得るか覺束なき現況に陷りしに阿部猪五郎氏卒先し火力應用の電氣會社を起さんと奔走し漸く發起人の顔觸れを集め請願をなしたりき其際後志水電も亦大發展を試み倶知安に來り畫策する處ありしが火力電氣會社は遲滯なく機先を制し當局官署の手を經て遂に免許を得たり依て發起人會を開催せしに一部有志間に電力財源の一たる水利便ある地にありて其利器を應用せず火力になすは時勢に適應せずとの異議を生じ茲に水利を應用す可く水源地の調査となりクトサン川を見硫黄川を探り下ソースケ川を調査し東奔西走河川の選定をなし居たる折柄偶々語る者あり（倶知安の地勢と尻別川支流の有樣）芳野川

上流（舊ペーベナイ）の溪流の水源地たる紫雲峽は懸崖絶壁峭然として矗立し如何なる工事を施こすも自由自在に水力電氣の水源地たるべしと諸氏相携へて其青松奇木の間を縫ふて蒼髯黛色影を浸す所水躍り龍臥し虎踞するが如き懸崖に至れば噴沫四迸一束の碎雨に異なるなき飛瀑あり直ちに實測をなさしめ水力應用に變更す可き爲め發起人會を開き即時衆議を決し創立の運びとなりしは實に大正五年二月なりし爾後百難を排し重役總係りにて株の募集點燈の調査工事の設計出願の手續き等晝夜兼行の有樣にて事業を遂行し創立未だ十ヶ月に達せざるに最早點燈の運びに至りしは重役諸氏の精勵と奔走に依る賜物なり遲くも十二月廿六七日頃は凡ての裝飾を終了すべく俱知安も亦不夜城の一美觀を呈するならん

目下營業主任　青柳幸作氏外二名

工事主任　鈴木重雄氏以下二名

資本金五万圓（千株）

電力六十キロワット百七十五馬力三千三百ボルト

現在申込燈　當町　二千三百灯

東俱知安　五百灯

武井三代吉氏

俱知安に於ける青年有志二明星の一人として目下の町長廣瀨悅太郎氏と對峙するに實に吾が武井三代吉君となす君は兵庫縣淡路の產にして明治三十二年武岡農場の支配人として來る農場の監督整理には巧妙にして他農場の如く小作料不拂等の缺陷ありしことなく實に農場經營者としての模範を示せり曩に俱知安に二級町村制の施行せらるゝや官民の希望に依り村長となりよく村民を督勵し村有財產の造成に盡力し今に於て其好果を收めつゝあり而して俱知安消防組の組織は君の村長時代に於て決行したるものにて遂に今日の如き盛大なるに至れり村長辭職後東俱知安ヌップリカン別に新たに農場を買入れ目下の武井農場なり一ヶ年五千餘圓の小作收得あり て資產十万に垂んとすと稱せらる氏は毎年十二月鄉里の實父の宅に歸り翌春又來る氏は父母に孝にして他所に見るも羨ましき程なり親父は嚴格の人にて君の一擧一動を監視する事嚴なるも君は能く服從して一言半句も父母の命令に反する無く夜中外出するも十時と約束すれば十分の相違も無く必らず歸宅して父母に外出中の日課を語る父母と（鄉里）別れ居住する時は毎月二三回事故を報告するを慣例とし居れりと君の娛樂としては義太夫と圍碁のみ而して義太夫は田

舍にては大天狗の方にて著者の如きは前座を勤むる役に當り居れり圍碁は初段に二目位にして倶知安に於ける碁客の一人なり一家は父母夫婦に子一人都合五人にして郷里にも亦相當の資產を有す本年道議戰の際一寸顏を出したるも父の訓戒に依り（郷里より）辭退せり將來は後志支廳管內の道議は勿論風雲に際會せば代議士の逐鹿場裡に馳騁するに至るべき前途多望の青年有志なり

金輪磯五郎氏

倶知安に於ける團体移住にして顯著なる成功を爲したるものは加賀團体福島東京の團体等なり金輪磯五郎氏は東京團体主森正名鈴木六右衞門氏等の請願にかゝる農場に來り今尙ほ苦心經營農場監督の任に當り居れり

東京團体は明治廿九年三月三日廿一戸を以て移住し來るも土地氣候の變化甚だしき（積雪及び樹林地に驚き）倶知安の事とて移住後數ヶ月にし皆歸郷せり然るに農場主森正名氏並に金輪氏は奮勵忍耐開墾に從事し居りしも農場主又事業上の關係より東京に歸る氏は玆に於て非常なる決心を以て農場監督の傍ら開墾に努力せしが今や倶知安に於て九十五町八反の耕地を完成し自ら指揮監督の任に當り好成績を得該部落の青年會長並に町會議員等の職に推擧せられ村公共の任に當り奮鬪努力忍耐以て身を立てたるは氏の如きを模範とすべし今秋農場主森氏來り農場の整理を見て一驚せられ小作其他の舊識知己を招ぎ酒宴を催さる著者其席に列し農場に對する意見及び團体移民倶知安の將來に於ける諸感想を語る場主並に金輪氏の懷舊談切開き當時の慘憺たる生活狀態等を聞けり而して今日は實に立派なる農場となり小作者等も亦相當の生活を爲すに至れり是れ一は農場主の訓戒もある可きも又實に誠實熱心なる金輪氏の監督指導の宜しきを得たる結果に外ならず氏は慶應二年二月二日東京府下荏原郡六郷村に生る農場主森正名氏と同郷の出身なり

倶知安理髮業組合

倶知安理髮業組合は二十九名（男女合計）の組合員を有し組合長は增井正氏牛耳を取り本年衞生展覽會の開催に際して山麓四ヶ町村の同業者大會を開き業務上の打合等をなし各自營業の改良を計りつゝあり倶知安に於ける理髮業者は明治三十四年基線西七號に日吉床なるもの開業せられてより次第に增加し香川床、日進床なども老舗の內にあり明治四十三年夏頃より組合中に

革命起り一人一頭三錢五錢と云ふ大競爭となり殆んど手の付け處なき迄客の爭奪を爲し居たる折柄四十五年四月十二日道廳技師鏑木靜夫氏倶知安に來り警察に於ける監督範圍の營業者を集め衞生講話を開きたりしが偶々著者は新聞記者として列席したる爲め鏑木氏と小樽新聞記者上田森次北海タイムス記者鈴木勝吉君等の援助の下に倶知安理髮業保健組合なるものを組織すべきことを勸告し其競爭の仲裁を計りしに二月十七日目出度床屋保健組合なるものを創立し顧問として山田邦吉鈴木勝吉兩氏並に著者山田實次加はり組合長に坂東喜和太氏日進床を推擧し圓滿なる解決を遂げ今日の如く平和無事なる營業を爲すに至れり而して目下の組合長は昨年改選せられたるものにて組合に於ける積立金等も漸次增加しつゝあるの盛況にあり

矢川文之助氏　（電話百〇二番）

辛酸刻苦に打勝つの意氣と堅忍不拔成功を期するの確信とを有せざれば生存競爭場裡に活躍する能はず殊に放漫なる生活を營む新開地に於ては勤儉にして眞摯ならざるべからず氏は倶知安停車場前に於ける三幅對として喧傳せらるゝ青年成功家の一人なり（高橋保三郎、高岸喜太郎と共に）明治四年十一月二十日廣島縣神石郡に生れ遠く北海道に移住し各地に轉々して遂に倶知安に在住するに至れり氏は決して世間を飾らず熱心以て貨殖の道を講じ居りしが偶々當地の富豪眞鍋濱三郎氏は氏の質朴にして勤儉なるを認め子弟を敎育すべく札幌に寄寓することゝなるや倶知安に於ける取引關係全部を氏に托するに至れり目下尙ほ相方信用の度を高め居れりと氏は倶知安花形の一人にして當地に於ける無盡講の如きは殆んど全部氏を會長に推擧しあるが如きは如何に氏の理財の道に長ぜしかを證するに餘あり而して今や氏の財產は倶知安に於ける中流にあるも居常最も質素にて殊に敬神の念厚し昨年著者は或染物屋の前にて鼈甲八幡社寄進と染拔ける大幟二本を見たり是れ廣島縣人の崇敬する神石郡に於ける有名なる神社にて氏も亦其氏子なるを以て遠く故鄕の產土神社に寄進すべく注文せしものなりしと是れ唯氏の敬神の念如何に厚きかを知ると共に氏の性行の一端を伺ふに足るべき一美事なり氏よ幸に成功の步を進めよ

倶知安眼科病院の開設

本書第五章在住者の發展第三項に記載せし倶知安に於ける病院の設置に對し開村以來專門醫の開業なかりし爲め評述する能はざりしが玆に廣島醫學校に於て好成績にて卒業せし有田醫師は

其後東京に移り多年醫科大學に於て眼科研究後渡道し壽都公立病院に於て眼科部長として奉職し獨得の敏腕を振ひ居られしに倶知安町有志の勸誘に依り町内九號線に眼科病院を開設せられたり是れ倶知安に於ける專門醫師の基元とす

診療項目

トラホーム、サカマツゲ、角膜諸病、眼底諸病、結膜諸病
眼科成形術、義眼、梅毒性眼病、内臓性眼病

入院ノ設備（普通入院 自炊入院）

十一月一日

倶知安町（九號線 コンビラ道入口）

有田眼科病院

擱筆するに臨みて特に謝辭一言を讀者諸君に呈す、開村以來幾多の文士諸氏の住居せられたるに拘はらず倶知安を紹介す可き有力なる著述もなく荏苒貳拾餘年を經過したり、元來余が如き學なく識なく經驗なく殊に文章などの綴方だに知らざる一寒生が借越にも筆を執りて諸君に見ゆんとするは、大膽にあらずして寧ろ狂なり、狂人に就て倶知安を知らんと欲する諸君の勞や實に大なるべし、而して狂たる余も亦其責任の決して輕からざる知る、然れども廣原に於て道を尋ねんと欲するに當りては犬も可なり、猫も可なり、牛馬も可なり、鷄も可なり、生物に倚て人家の所在を知るは古今其例乏しからず、殊に況はんや犬猫牛馬よりも愚人又は狂人を優れりとせざるべからず、余が倶知安史に由て倶知安を知らんと欲するは、只狂人に聞きて方角の概略を知り得るに等しかるべし、諸君幸に無きには勝るとの宏量を以て、著者の眞意のある處を諒せられん

ことを祈る、他日吾が倶知安を愛するの文士出でゝ完全なる案内書は出版せらるべしと雖ども先づ以て淺學菲才の著者が幾多の心血を濺ぎたる結晶として讀了せられなば著者の光榮なり、最後に一言す、記事に就ては著者の本領として、一點の虚僞曲筆なきことを聲明す

羊蹄山麓に於て

山田實次敬白

大正五年十二月

倶知安史終

金貸業
倶知安町
河合忠次郎

鮮魚干魚雜貨
果實青物乾物

俱知安九號線

干松岩商店

電話百七番

東京火災海上運送
保險株式會社
仁壽生命保險株式會社
代理店

㊀ 矢川文之助

電話一〇二番

俱知安町役場前
代書業組合長 細川喜三郎

代書業

後志支廳前
蓮沼友次郎

祝俱知安史編纂

岩内町

梅澤榮太郎

米穀雜貨並二委托販賣業

俱知安九號線

合資會社 久小野商店

停車場前

館醫院

院長醫學士 館正三

電話四十四番

中央市街九號
山口醫院
院長 山口百重郎
電話九番

米雜商
穀貨店
俱知安六號線
本田傳四郎
電話一一〇番

スタンダード石油會社
チヤスタ代理店
北海道俱知安
米雜貨
農產商
金岡商店
電略（井一）
電話二十二番
振替東京二四ノ一九番
口座小樽二二二番

吳服太物商
高橋吳服店
電話百〇一番

新古疊建具
簞笥漆器
瀨戸物雜貨
㊁ 永井長藏
俱知安九號線
中央市街の古參店舗

土木建築請負業
久我祐信
北海道俱知安

土木建築請負
㊀ 府川兼吉
俱知安基線通
電話七十一番

御料理
並二
きそむ
常陸屋
鈴木艶之助
俱知安基線通

和洋
御菓子商
萩田龜次郎
電話七十五番
電略ヤマキ(又ハ)カ

俱知安九號線
笠井支店
電話百五番
岩内本店
電話七十五番

新古疊建具
簞笥漆器
瀨戸物雜貨
俱知安九號
田邊信義

同氏中央市街
古參商店

後志農園
園主 今井亦藏

北海道俱知安町中央市街
㊂ 弘明堂

雨傘 大安賣
合羽
俱知安八號線
美濃屋
㊐ 田中清次郎
御休所

馬具製造販賣所
俱知安九號線
分 勝崎商店

北海道瞻振國俱知安
帝國製麻株式會社
俱知安製線場

鮮魚並ニ干物
俱知安九號線
三浦慶吉
五十集業古參ノ店舗

學校用品紙類
並ニ文房具類
越野村俊明
電話二十七番
教科書特賣店

米穀荒物商
俱知安停車場通
福高橋收茂
電話七十八番

俱知安驛前
南河旅館

代書業

俱知安登記所前
郵便切手賣捌所
淺井潤三
電話十八番

北海タイムス
其他諸新聞賣捌所
鎌田新聞店
電話七十七番

鮮魚乾物商
俱知安停車場前
奥光太郎
電話十九番

質屋
俱知安
長楢木長八

材木業

俱知安町

村雲好三

電話四番

四章三項記事參照

木材商

俱知安町

㊫後藤勝

電話二一番

米穀雜貨農產商

俱知安停車場通

須川六藏

電話三十六番

古着商

俱知安中央市街

阿部直太郎

電話二十三番

米穀雜貨農產商
俱知安基線西六號
對嶋合資會社
電話四十九番
業務擔當社員　對嶋忠次郎
支配人　美馬万平

齒科專門
岩內港御鉾內町
下國齒科醫院
俱知安停車場通
下國出張所
主任技手　千葉力

蹄鐵工場
俱知安基線九號
高井三太郎
劇甚なる競爭に
打ち勝ちたる成功者

北海の箱根七湯の一
ニセコアン別
青山不老閣
記事參照

倶知安驛呼賣構内待合

中山貞作

珍味初物希品

九號線

三次家

料理に有名な料理店

北海箱根七湯ノ一

倶知安驛ヨリ一里十八丁

馬車ノ便アリ

山田溫泉

溫泉主　岡田

記事一章ノ六參照

吳服太物商

長間三平商店

電話十九番

札幌區北二條西四丁目壹番地

辯護士從六位　吉田敬一

電話一〇六六番

辯護士吉田敬一岩内法律事務所
事務主任　安藤與助

事務所　岩内町橘町

主任住宅倶知安基線百五十七番地（山金座隣）

民刑訴訟事務ヲ取扱フ

貧困者ニハ義俠辯護ヲ爲ス

大正五年十二月十八印刷
大正五年十二月廿二發行

正價金貳圓

不許複製

著作兼發行人　廣島縣双三郡酒河村字青河
當時北海道虻田郡倶知安町基線西五十六番地
山田實次

印刷者　札幌區北二條西三丁目一番地
本間清造

印刷所　札幌區北二條西三丁目一番地
北海石版所活版部

349
433

終